翔生（しょうせい）

発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3－2－2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-283-7847
編集　広報委員会

平成元年（1989年）
3月1日号
通巻　第6号
（年2回　3月・10月発行）

「綱領」「指針」を採択

第10回 会員総会

元年度は組織強化に重点

新年度に向けて抱負を述べる石川元年度会長

※全国商工会議所青年部連合会の第十回会員総会が一月十日、東京麹町新宿区の（団）日本青年館で行われ、平成元年度事業計画（案）・同収支予算（案）をはじめ商工会議所青年部の「綱領」「指針」、平成元年度役員の選任（増員）など、いずれの議案も原案通り採択された。

総会には会員青年部の代表者、代理出席者ら約百五十人が出席。冒頭、挨拶に立った萩原会長は、「商青連は昭和五十八年四月に発足し、本年度は創立五周年という記念すべき年にあたる。これを記念して本年度は各種の記念事業を実施してきた」と前置きし、「創ろう、ふるさと　21世紀への礎」をスローガンに掲げて取り組んできた本年度の事業内容をはじめ商青連活動の取り組み方などについて述べた。

このあと六十三年度各委員会からの報告が行われ、総務はじめ広報、経理、組織強化、特別の五つの委員会代表から本年度に取り組んだ事業について報告があった。

引き続き議事に入り、平成元年度事業計画（案）及び同収支予算（案）を審議、いずれも原案通り承認された。このうち、予算規模は一千四百十八万九千円と対前年度比で二十一万九千円の増となり、青連の組織強化に意欲を燃やしている。また平成元年度の事業としては商青連の組織強化に意欲を燃やし、商青連未加入青年部等との懇談会を積極的に開催して加入を呼び掛けていくとともに、六十三年度特別委員会で策定した「青年部活動への提言」などのフォローアップのために元年度も引き続き特別委員会を設置、鋭意取り組んでいくことになった。

このあと、議長（萩原会長）から「商工会議所青年部の「綱領」「指針」について本総会に提案し採択したい」旨の提案があり、審議した結果、原案通り採択された。

この「綱領」「指針」については、「青年部活動への提言」とともに元年度特別委員会でその普及・PRの方法等を検討していくことになった。

また、続いて行われた平成元年度役員の選任（増員）では、西田総務委員長から、「当該年度に限り、会長選出ブロックの役員を一人増員したい」旨、平成元年度は会長を選出している九州ブロックの役員定数を一人増やし、これを指定商工会議所青年部・監事の増員に充てたい」との提案があり、原案通り承認された。

最後に、石川平成元年度会長から挨拶があり、新年度に向けての力強い決意と抱負が述べられた。

平成元年度 会長あいさつ

平成元年度商青連会長　石川正一

平成元年の記念すべき年に、設立から7年目を迎える全国商工会議所青年部連合会（商青連）の組織強化と活発な青年部活動による商青連活動の充実を基本に、皆様と共に考え、共に活動する機会を持ましたことは、この上ない光栄の至りであります。

さて、わが国は国際化社会、高度情報化社会、高齢化社会などの到来によって、消費者ニーズの多様化が進行しており、これに制度されて企業経営を取り巻く経済環境も大きく変化し、産業構造も転換期を迎えています。

わが国のこのような経済環境のもと、地域社会の先導的役割を担う商工会議所の果たすべき役割は従来にも増して重要になっております。また、各地商工会議所においても、柔軟な発想とエネルギッシュな行動力を持った青年経営者が、商工会議所活動に対し積極的に参加することを期待しており、21世紀の主役となる商青連のメンバーが次代の地域のリーダーとして、自らの役割について議論を深め、新しい世紀に向けて地域の枠を超えた交流の輪を広げることは誠に意義深いものであります。

次代の地域のリーダーとなる青年経営者は、転換期の時代を先取りする新鮮なアイデアと行動力を備え、新に経営権力の向上に努め、事業を成功させることは当然でありますが、それぞれの地域の活性化にも力を傾注し、魅力ある地域の創造に関心を寄せなければなりません。

特に、国際戦争の最在するロ本における次代の経営者として、情報の分析力と先見性を養うことは不可欠とされ、商青連の会員同士が同業種・異業種で交流を持ち、付ず環境の変化を同世代の友情の絆を大切にすることは、高度情報化社会への効率的な対応といえ、全国の青年部活動として高く評価されます。

私たちは、このような時代の転換期における地域の活性化を図る大きな原動力として、また、次代の日本を担う青年経済人としての自覚のもとに、自己研鑽のための研修会や会員相互の親睦を深めるための諸事業に積極的に参加し、それぞれの地域を活性化できる青年部活動を展開しなければなりません。

商青連も設立から7年目を迎え、各地青年部の活発な活動を背景に着々と成果を上げており、内外から高く評価されております。今年度も先輩やOB諸の皆様のご功績を基礎にし、親会議所である日商の更なるご指導とご協力を賜わり、商青連未加入青年部及び青年部未設置商工会議所に対しても青年部の設置と加入を促進して組織強化を図り、未来の日本を築くにふさわしい活力ある青年部活動を展開していく覚悟でございます。

最後になりましたが、会員各位のご健勝と今後のご協力を衷心申し上げ、私のご挨拶といたします。

平成元年度商青連年間スケジュール（予定）

H1.	4.	6(木)	第35回役員会（東京）
	6.	7(水)	第36回役員会（東京）
	7.	27(木)	第37回役員会（東京）
	8.	2(水)	近畿ブロック運営研究会（洲本）
	8.	27(日)	九州ブロック運営研究会（別府）
	9.	2(土)	四国ブロック運営研究会（西条）
	9.	8(金)	関東ブロック運営研究会（桐生）
	9.	11(月)	中国ブロック運営研究会（益田）
	9.	13(水)	東海ブロック運営研究会（関）
	9.	22(金)	北陸信越ブロック運営研究会（高岡）
	10.	1(日)	東北ブロック運営研究会（青森）
			機関紙「翔生」（第7号）発行
	10.	6(金)	第38回役員会（東京）
	11.	16(木)	第39回役員会（高知）
	11.	17(金)	第11回会員総会（高知）
			第9回全国大会（高知）
	12.	5(火)	第40回役員会（東京）
H2.	1.	19(金)	第41回役員会（浜松）
	2.	6(火)	第42回役員会（東京）
	2.	6(火)～7(水)	第7回中央研修会（東京）
	2.	7(水)	第12回会員総会
	3.	1(木)	機関紙「翔生」（第8号）発行

（注）、北海道ブロック運営研究会（美唄）の開催期日については検討中。

平成元年度商青連事業計画

（平成元年4月1日より平成2年3月31日まで）

わが国経済は、大きな転換期を迎えており、地域社会の先導的役割を担う商工会議所の果たすべき役割は従来にも増して重要になっている。特に、柔軟な発想とエネルギッシュな行動力をもった、われわれ青年経営者が商工会議所活動に対し、積極的に参加することが、ますます期待されている。

そこで、全国商工会議所青年部連合会は、各地商工会議所青年部活動のより一層の推進を図るとともに、次代のリーダーとなるべき青年経営者が21世紀に向けて、自らの役割について認識を深め、地域の枠を超えた交流の輪をさらに広げるために、より積極的な事業を行っていかなければならない。

こうした状況を踏まえ、商青連の組織強化を最重点目標に本年度の事業活動を下記の通り展開する。

記

1、組織の拡充・強化

各地商工会議所青年部の結成を促進するとともに、組織の拡充・強化を図る

(1)各地商工会議所青年部の結成促進と商青連への加入促進

(2)ブロック別運営研究会及び会員会議の開催

(3)商青連未加入青年部との懇談会の開催

(4)都道府県青年部連絡会の開催と県連結成の推進

2、研修・研究活動の充実

青年部員事業者および青年経営者としての資質向上を図り、併せて会員相互の親睦と連携を深めるための事業を行う

(1)中央研修会の開催

(2)同業・異業種及び地域間交流の促進

(3)企業経営等研修視察の実施

3、広報活動の推進

青年部活動の活発化を図るため、各地青年部の情報交換を促すとともに青年部活動を積極的にPRする

(1)機関紙「翔生」の発行・配布

(2)日本商工会議所発行の「会議所ニュース」「石垣」を活用しての青年部活動状況の紹介

(3)青年部運営活動状況調査の実施

4、主要会議・交流会の開催

商青連の適正かつ円滑な運営と各地商工会議所青年部の交流を促進するための事業を行う

(1)会長総会及び役員会の開催

(2)日本商工会議所役員及び各地青年部役員・他団体役員との交流会の開催

(3)全国大会の開催

5、政策提言等活動の推進

目まぐるしい社会経済環境の変化に対応し、必要に応じて地域方面に意見・要望活動を行う

6、「青年部への提言」等のフォローアップの推進

昭和63年度に各地青年部へのアンケート調査を通じてとりまとめた「青年部の今後のあり方に関する報告書」における提言の具体化、商青連への意見・要望等についての検討など、フォローアップを行う

躍動する日本列島青年部

ウォーク・ラリーや七夕みこしで市民と交流
仙台商店会青年部連合会

当青年部は、昭和49年商工会議所会頭の旗入りで、市内にある商店会の青年部に呼びかけて結成されたもので、名称、組織など各種方の青年部とは異なりますが、その設立経緯等から、これまで実質、商工会議所の青年部として各種活動を行って参りました。

現在は、市内25商店会の青年部傘下の約400人の会員が加入しています。

では、主な事業を紹介します。

◎子と親の歴史めぐりウォーク・ラリーの開催。

仙台の春のおまつり。仙台青葉まつり。の一環として、伊達政宗ゆかりの地「青葉城址周辺」を親と子が散策するもので、地元の歴史を見直すとともに親子のふれ合い、語らいにと、市民から大変喜ばれています。

3年目を迎えた今年、このイベントもすっかり市民に定着、約1千5百人の親子が参加して行われました。

青年部はこのイベントを主管、当日までの準備から当日の全コースの警備をはじめ、イベントが終わるまでの一切の世話役を行います。

◎仙台七夕まつり・勇壮七夕パレードへのみこしの参加

仙台の伝統行事"七夕まつり"は毎年8月6、7、8日の3日間で約二百万人超の観光客を迎え、約3千本にのぼる豪華絢爛な竹飾りが街を飾わしますが、この時、同時に開催される行事が勇壮七夕パレードです。

このパレードには43団体、二千百人が参加、いろいろな演技をしながら練り歩くのですが、当青年部もこのパレードにみこしを一基練り出すものです。

この"みこし"は3日間、主に青年部が担ぎますが、この担ぎ方も一般に公募、年々市民の参加を増え、最近は女性や外国人留学生の参加も見られる等、まつりの盛り上がりに一役買っています。

以上、当青年部はこうした"まつり"に参画することにより、相互の団結の強化は勿論"まちづくり""まちおこし"に寄与しています。

今年、仙台市は市制百周年を迎え、また4月には政令指定都市となります。東北の拠点都市から日本の拠点都市として、新しいまちづくりが進められております。

当青年部の10周年にも当たる今年、委員会制の充実や地域ブロック制の一層の推進等、組織の強化を図るとともに、各種事業を通じて新しい"まちづくり"に邁進していきたいと思います。

地域活性化目指し海外研修
燕商工会議所青年部

プレスの音が絶えない町「つばめ」。町は騒然とし、古き床しき町並もなく、文化は失如しております。でも、我々はそんな"燕"が大好きです。

その為も、今や新しい高速交通体系の発達から、新しき町、新しい燕の地図ができ上がろうとしています。我々は自分たちの手で、そこに、文化なり歴史を作っていかなくてはならないのです。そして、すなわちそれが我々青年部活動の原点になっているのです。

そんな当青年部のいろいろな活動のひとつに、海外研修があります。二年前の中国研修（写真）が大成功だったこともあり、引き続き今年は、ニューヨーク研修が予定されております。

さて、その中国研修、香港中国の旅行と言えば、北京、南京、上海、ケイリンが上げられますが、我々はふだん人が見ない第機工業地帯、特殊なところ、広州、深圳に行きました。その時には、まだ中国に対してそれ程骨域を感じなかったのですが、昨今、町で売られている物を見るとチャイナの文字が目について、日本でこれほどなら世界の大消費国では……と考えると脅威です。

しかし、安物は安物でしかなく、また、中国産が中国のブランドではなくOEMでしかない間は、極的にはそう恐れることもないと思います。その間に我々は、自独のブランドメーカーのやり方を学び、ある程度の技術力を自分のところで持ち、ノウハウ・グランドを確立することにより、それこそ我々が中国に生産させても良いようにすべきでしょう。これら、中国の現状を見、話し合えることができることは、TVなどの報道と違った見方、ジャーナリストのことは、大いにプラスであったと思います。

今年はニューヨーク視察です。最近は東京が情報の発信地になりつつありますが、まだまだ、文化の発信地はなっていません。そういった意味で、世界の文化の中心地のひとつであるニューヨークを内側から見れることは、それだけで価値のあることだと思っています。さらに、メンバー二十名の参加により、自分の目だけに映る一通りのニューヨークではなく、二十人の、つまり二十通りの見方、考え方ができることが今から楽しみです。そのためには、研修後のミーティングが大切でもあります。

燕の国際化は確かに早かったと思います。しかし、PRの仕方が拙く、遅かった。これからは、我々若い者がスナキな燕のPRの仕方を考えていかなくてはなりません。

これだけ元気な二十名が、ニューヨークへ行くことが、燕への一つの打ち上げ花火となれば幸いです。

〔以下略〕

若手パワーが招いた"時の人"
桐生商工会議所青年部

我々、桐生商工会議所青年部は発足以来、経営資質向上とのための自己研鑽、異業種間の交流、情報交換、地域社会づくりなど、"内なる活動"を進めております。

"時の人"である実践講座を桐生に招いての講演会も回を重ねることに充実してきました。その回顧をしていきますと、ミサワホーム株代表取締役の三沢千代治氏による「変化に対応する経営」がまず第一弾。会社創業から強か30年でミサワホームをわが国の代表的な住宅メーカーに育てあげた同氏の発想、戦略、経営、さらに住民革命を提唱し、家治りからファミリーゼーションへと、住まいの未来像を求めてやまない中から誕生する誘き出すような発想に、経営者として多くの収穫を得ることができました。

第二弾が画期的なベンチャービジネスのはしりである第一精工株原始社長の横山誠氏「財利へのチャレンジ」からスタートし、新素材を開発、エンジニア業界首位にのし上がったその不可能を可能にするパイタリティーと独創性は素晴らしいものがありました。

第三弾に神スリーポンド会長の鈴久森視氏「若手経営者に期待する」をテーマに、創業時に遡っての貴重な経営論を伴聴いたしました。

第四弾は外食産業の草分けとして急成長を遂げた柳ずかいろーく会長の横川敏氏「わが社の経営戦略」と題し、一号店のオープンに至るまでの中小企業としての決断や不安など、苦労話をうかがいました。

第五弾として、ハンバーガーで一千億円企業にのし上がった日本マクドナルド株の藤田田氏（写真）「日本マクドナルド成功の秘訣」と題し、「わが社は外食産業でなく、情報集約化産業だ」と力説いたしました。

最近では福島県の国内最大手メーカーである株パンダイ社長の山科誠氏を招き、「未来を創造する」をテーマに、昭和一ケタ生まれの若手経営者らしいビジョンを学びました。

こうした一般に対しては講演活動をしない、日本を代表する経営者を桐生にお呼びし、貴重な超一流の経営人の経験談や、経営ノウハウを学び研鑽を積んでおります。

"リーダーシップ"をスローガンに活動
春日井商工会議所青年部

春日井商工会議所青年部が設置されたのが昭和54年9月18日で、現在、正会員60名が本年度のスローガンである「リーダーシップ」を目標にして、環境、組織運営、広報、渉外、能力開発、経営企画の六つの委員会事業を中心に、活動しております。

その中で、経営企画委員会が担当した「おすがいインポートフェア'88」（写真）は63年度中小商業総合振興事業の地域指定を受け、10月21日から三日間開催されました。酒類をはじめ雑貨、アクセサリー、食料品、家具、食料品、そ部員も、パチ、パチでした。総客数は約千三百人で、売上げ目標10万円、利益目標10万円を大幅にクリアすることができ、大満足でしたが、ただ、部員の参加人数が五〇%も少ないのが課題として残りました。

その他にも、一泊研修、半日視察研修会、親睦会、定例会等々の事業があります。一人一人が色々な事業に参加し、「リーダーシップ」について考え、行動し、判断することにより、自己研鑽の場ともなっております。

来年度は10周年を迎えることから、地域の活性化と社会福祉を目標にして、会員で記念事業に取り組む予定であります。

「楽キング」発売から「彦根商人塾」設立へ
彦根商工会議所青年部

世界パーペキューセット「楽キング」発売、これが、私たち青年部の異業種融合化第一号の商品です（写真）。

世界コンビニ・パーペキュー車等の会員（三菱電機特産のアネモ）で入手できる「楽キング」をはじめ世界のビール、洋酒類までセットされており、五人分で恰好の一万二千円です。青年部の有志が自発的に、各自の取扱商品を持ち寄って創り出したもので、現在マスコミ、近畿放送で紹介され、アウト・ドア志向の時流にマッチした商品として好評を得ております。

私たちの住む彦根は、井伊家三十五万石の城下町として発展してきた歴史をもつ都市です。また、日本列島の中心（ヘソ）に位置し、人知れていえば"の部分に当たり、産業流通のいわば"陸の海峡"ともいえる重要な地という見方もできます。

彦根を「城下町」という枠から解き放し、地の利を生かして全国に商業活動の場を求めていった先人「近江商人」の地として捉え直そうとする気持が、当青年部に出てきました。（次ページに続く）

私たちは、ここに「塾想商人(あきんど)塾」設立を宣言します。「乗キング」商品化のプロセスに流れる見入「近江商人」の自由闊達な熱き思欲を、結晶する「塾想商人塾見」のエネルギーとし、地域活性化のため、優れた若手経済人を送り出すことを目標です。

「まちづくりは人づくりから」。地域の振興は、優れた商人づくりから。各種行事への積極的な参加と平行し、私たちが行わなければならないことは、仕事を通じてよい商いを提供する優れた商人となるよう努力することでしょう。

創立分周年を迎えた塾想青年部は、自我に目覚めた青年のようにようやくアイデンティティを見定め、自らに課せられた使命を理解しようとしています。

創立10周年記念でオークション
松江商工会議所青年部

今までの青年部活動の中で、全会員が一丸となって熱く燃えていった事業は、あまりなかったように思われます。創立十周年を迎えたわが青年部も、創造の時代から創成の期へと移っていく中で、二十一世紀に向けてさらに躍進するためにも、何かの目標を立て、機になって、眠と眠とのふれ合いの中に、新しい連帯感を持った活力ある青年部となるべく、事業が望まれていました。

幸いにも松江には伝統ある水郷祭があり、しかも商工会議所を中心とした新生水郷祭としてスタートを切ったばかりでした。また一方では、産業会館の建設促進も叫ばれながら、今一つインパクトに欠ける所もあり、その気運を盛り上げるためにも、青年部設立十周年記念事業として、「産業会館建設基金募集出品オークション」を水郷祭に合わせて開催致しました。

「ただもう、暑いだけ」の言に尽きる真夏の二日間。その後の「やっぱりよかった」と言う満足感。全会員が一丸となり、目標に向かって進んでいく上で流した汗の多かった分、青年部としての結束がさらに強くなったのではないでしょうか。「目標は大きい方がいい」と掲げた目標額百万円。到底達成は無理だろうと思いながらも、「やってやるぞ!」という意気込みが会員一人一人から感じられました。地域開発委員会を中心としたオークションの品物集めは、各会員企業のみならず、多くの方の協力を得て予想以上に回収することができました。数日にわたるこの回収作業も、会員の汗の結晶と申せましょう。

事が不事かの真夏の一日、舞台の上では大きな声とともに、商品が市価の半額以下でせり落されていき、飛ぶように売り捌かれていきました。

オークションに刺激され、後の委員会では「かき氷コーナー」、「生ビールコーナー」が計画され、こちらも大盛況。連日完売のフル回転、大盛況のありさまで、先に掲げた目標額もほぼ達成できました。

夏の一日、見事に成功裏に終えたこの一大事業は、会員の一致団結の賜物であり、また、地域の人々の温かい支援があったからこそ成功したものです。

県・市と連携し 徳島の飛躍を目指す
徳島商工会議所青年部

当青年部は、徳島商工会議所の創立九十周年を機に、地域経済の活性化と若手経済人の連帯を図るため、昨年九月に結成されました。ご承知のように、昨年四月、瀬戸大橋が開通し、四国は史上初めて本州と直結、産業経済をはじめ、あらゆる面で大きな変革期を迎えております。とりわけ徳島県は、西年後の関西新国際空港開港、九年後に予定されている明石海峡大橋開通の影響を直接受ける位置にあり、また、四国の交通体系を一変させる高速道路の建設も進んでおります。

このように本県経済界は、未曾有の環境変化への対応を迫られており、しかも与えられた時間は限られております。

当青年部としても、「ここ五年、十年の対応が、本県経済の死活問題である」との危機的認識のもとに、本県のように経済基盤の脆弱な地域では、民間の力だけでは解決できない問題が山積しており、官界があるため、県・市等行政機関との連携・協力により、地域の活性化を図る諸事業を推進することに致しました。

本年度は、徳島市が長期構想として発表した「とくしまニューフロンティア事業」の「海洋パーク」、「アメニティーシアター」等について、委員長をはじめ幹部を講師に招き、数回にわたって研究会を開催、事業意見交換を行いました。そこで全市民に周知を図り、認識を高めてもらうために、県・市青年部会長が客行委員長に推され、「とくしまニューフロンティアシンポジウム」(写真)を市等と共催するなど、同事業の推進を積極的に図っております。

また、会員団の相互親睦、交流を深めるため、本年度は、顔写真とプロフィールの入った会員名簿の作成、家族ぐるみのレクリエーション、夫婦同伴での講演会・パーティ、ゴルフコンペ等を計画・実施致しました。

5つの柱立て研修活動
諫早商工会議所青年部

諫早商工会議所青年部は昭和60年11月の発会から5年目を迎え、その組織、基盤が確立したと言ってよい。

今年度の活動を、基本方針を、次代を担う若き経営者の一員として、自己研鑽及び経営全般の実践的研修を通じ、自己企業を見つめ直し、町づくりを含めた商工業の近代化の研究と国際的視野を高める経営等を積極的に展開することを、大きく5つの柱を立てて次の通りの研修活動を実施している。

1、経営戦略
・外食産業のブームに乗って長崎から関東まで店舗数を伸ばし、急成長を遂げている鈴リンガーハットの米濱社長を招き、その経営理念について講演会を開催した。
・会員個々の経営者としての管理能力、性格について診断テストを行い、伸ばせて企業内におけるリーダーシップ、労務管理等をテーマにパネルディスカッションを実施した。

2、経営戦術
・ホームメディアを駆使し、ルートなる顧客管理、市場開拓を進め、徹底した品質管理で博多の味として定着した、味のめんたいこ明ふくやの川原専務を招き、同社における市場開拓を内容とした講演会を開催した。

3、視察
・企業において、次代を担う後継者として最も関心がある相続問題についての講習会を開催し、相続税の恐ろしさを知り、相続に関してタブー視することなく、合理的な相続力法について研修した。
・今年4月から実施される固定資産税について研修会を実施した。

4、国際化
・国際化の時代と呼ばれて久しいが、たとえ、地方で活躍する企業とはいえ、国際化の波を避けて通ることは不可能となっている。

今後、会員企業内における新たな企業活動の方向を探ぐり、国際化を図るための手始めとして、丸紅㈱の輸入実務担当者を招き、輸入実務についての講習会を実施した。

昨年、当青年部では初の海外研修を実施し、30数名の団員を当長崎県と姉妹省である中国福建省へと派遣した。中国では開放政策が進む福州市において福建省の若手経営者と輸入、貿易、販売促進についてのシンポジウムを開催し、大きな成果を上げて帰国した。今年度は10月23日から3泊4日の行程で、オリンピックを契機に急速な経済発展を続ける隣の国、韓国を訪問し、熱気あふれる韓国の企業視察と国防を含めた韓国の実情を視察した(写真)。

昨年、今年とアジアの国を訪問して感じたことは、国内だけを見ると、わが長崎県は西の端に位置し、地理的条件は決して良いとは言えないが、視野を広げて考えると、アジアの主要都市との距離は非常に近く、歴史的に見ても海外との西の玄関口になりうると確信したことであった。

5、特別研修事業活動の充実
その時々に発生した問題について、自由に参加し、自由な研究を進める特別研修室を開設し、現在3つの問題について研究、研修を進めている。

①ホームメディア特別研修室
昨年度から発足したこの研修室は、地域におけるニューメディアのあり方について研究を行い、ワープロ、パソコン、パソコンを使った経理、通信などの研修を重ねてきた。また、NTTと共同でパソコンネットを使い、関東、関西地区在住の当市出身者リスト等のデータベース入力作業を行っている。今後、このデータベースを使い、当市商業活動に十分利用していきたいと考えている。

②町づくり特別研修室
諫早市工会議所では一昨年、商業近代化基本調査を実施し、当市の未来計画を発表した。青年部ではこの基本計画の研修と総合的な町づくりの研究のため特別研修室を設置した。現在、当市の観光計画審議会の各専門部会に青年部員を送り、諫早市の総合的な町づくりに研究参加している。

③国際化特別研修室
会員企業内での国際化という問題について検討を進め、新たな事業活動をさぐるために国際化特別研修室を設置した。現在、貿易の実習としてサンプルの発注、商品選定まで終了し、これからの発注、取引の段階となっている。

このように、諫早商工会議所青年部では、青年部活動で各種研修、研究活動を行い、各企業の活性化を図っているが、このことがひいては、私たちのふるさと・諫早のより良い発展と活性化に役立つことを信じ、今後とも活動していきたいと考えている。

新しい夏祭つくる
伊万里商工会議所青年部

昭和60年5月に誕生した伊万里商工会議所青年部は、今年で4年目を迎え、経営研究、地域開発、観光振興、広報、会員開発、総務の6つの委員会活動を柱に異業種間の交流、情報交換を通じての自己研鑽、企業経営の場として、ひいては地域経済発展の場として、青年経営者らしい新鮮な感覚にあふれた発想と創造を図り、21世紀へはばたく「いまより一層の飛躍をしていきたいと張り切っております。

今年度(昭和63年度)の活動の一つとして、当青年部で呼いまりを「なみこし」を実施しました(写真)。これは、毎年8月に行われる相撲納涼花火大会が今年でもちょうど第60回を迎えたのを機会に、今までの伝統的な行事に新しい企画を取り入れ、今までになかった新しい名物行事として生まれ変わらせようとの発想で行ったものです。花火大会に加え、子供綱引き大会、丸太乗り大会、それにメインの「なみこし」を与賀青年部で企画し、若いピチピチギャルが神輿を担ぎ、町内を練り歩き、大好評を得ました。

伊万里市では、日本三大喧嘩祭りの1つと言われる「伊万里トンチンカン祭り」が毎年10月に行われますが、これは男性的な喧嘩祭りであり、昔から当市では祭りは男だけの物という雰囲気があったのでこれを一新うせ、新しい伊万里の夏祭をつくり上げました。

伊万里は昔から美人の産地と言われます。この伊万里美人たちがどんどん活躍し、伊万里市のPRに一役も二役もかってくれることを期待したいものです。なお、このなみこしはその後参加した女性で「伊万里女みこしの会」を組織し、自主的に運営されています。

伊万里市は世界的に有名な焼物「古伊万里」発祥の地として古くから栄えた町ですが、これからはこの伝統に新しい物をプラスして新しい伝統を築いていく、そんな「ニュー伊万里」を築く一員として、我々青年部会員が実践を通じて貢献していきたいと思います。

青年部「綱領」「指針」を策定

今、なぜ、青年部の「綱領」「指針」なのか

●設定理由

昭和60年には13商工会議所に青年部が誕生され、全国商青年部に拡大された。そして、商青連が結成されて6年目を迎えた。

これまでの活動は、創生期の試行錯誤の連続であったと言っても過言ではなかろう。過去の活動の見直しと、これから新しく設立される青年部のために、そして私たちの活動のバックボーンとなるものは何か、活動の判断基準となるべきものを何に求めるのか。

このことについて、各地青年部でいろいろな場面で語られて久しい。"青年部の活動は運動と言われなすべきか、その判断基準は、"という活動ポリシーを確立すべき時であろうと考えられる。

地についた活動の積み重ねこそが、"青年部の伝統をつくりあげ、着実に社会的評価を高めることにつながるのである。

以上のことから、青年部の「綱領」「指針」を定めるものである。

豊かな発展を実現することを、商工会議所活動の中で実践するものである。この原点を踏まえ、これからの私たちの活動をさらに充実させ、拡大し、さらに21世紀に向かい、21世紀を超えて引き継いでいくならば、今こそ青年部は何をなすべきか、その判断基準は、という活動ポリシーを確立すべき時である。

●青年部活動の基本的な考え方

私たち青年部の目指すものは、豊かで住みよい地域づくりにある。これは、地域の豊かな発展が、わが国の明るい将来を導くという基本的な認識に立つものであり、地域社会の健全な発展を図る商工会議所の活動の一翼を担うことにつながるものである。

地域の経済的発展が豊かな地域づくりの根源であることは言を待たない。そして、その原点は私たち自らの企業、商いを発展させることにある。

刻々と変化する国際情勢の中で、今やわが企業、商いは安泰といったことは考えられない。何らかの形で、直接的に、間接的にその影響を受けている。グローバルな物の見方、考え方がさらに要求されると同時に、変化に対応できる判断力、決断力が企業の大小にかかわらず、経済人として特に欠かせなければならない資質となることは言うまでもなかろう。

私たちは次代を担う青年経済人として、互いに切磋琢磨しつつ、自己研鑽を行い、ひいては地域社会における先導者としての資質向上を図る必要がある。「和而不同」(和して同ぜず)という言葉があるが、これが少なくとも青年部メンバーのあるべき姿であろう。飲み食いの席で生まれた、なれあいの仲良し集団の中からはなかなか新しい発想や行動は生まれない。真剣目な議論の後の爽やかな一杯こそ、私たちの求めているものではなかろうか。

住みよい地域づくりとは、人々が安心して生活できる環境の実現と言える。安心とは、豊かさ、便利さ、快適さ、自然といった心の満足度に置き換えることができる。このことは、一方では経済的な豊かさに支えられることが必要であろうし、他方では文化的側面の充実が求められよう。

私たちは、この文化的側面にも深い関わりをもつ必要があろう。地域特性は少なからずこの文化的側面から見い出されるものである。潜在的な表現をすれば、地域づくりは、地域の文化的特性の継承とともに、新しい文化的創造であると言えも、祭りやイベントも文化であり、美しい商店街をつくり活性化を図るのも文化であろう。このような観点において、私たちは地域の文化継承を行いつつ、新しい文化創造のために行動しなければならない。

青年部が各地で設立されるのは、商工会議所活動に新風を吹き込み、活性化を図るには若者の力が必要だとの考えによるところが多いと聞く。若者の柔軟な思考力、瞬発できる行動力、集中力に期待されているのである。ところが、私たちは親会議所から安易にまかされた事業を安易に請け負うことをしてはいないだろうか。決してこれを否定するものではないが、青年部が商工会議所活動の一翼を担い、会議所活性化を図るのであれば、明確な目標、目的をもち、独創的発想のもとに、勇気と情熱をもって積極果敢に行動することこそ、求められる青年部の姿であろうと考えられる。

「綱領」「指針」は、基本的な青年部活動のポリシーであり、判断基準である。これをもとに全国各地の青年部が、そしてメンバー諸兄が豊かで住みよい郷土づくりに邁進するならば、わが国の明るい将来が眼々と息づくに違いないと確信する。

商工会議所青年部

綱　領

商工会議所青年部は

地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い

次代への先導者としての責任を自覚し

地域の経済的発展の支えとなり

新しい文化的創造をもって

豊かで住みよい郷土づくりに貢献する

指　針

われわれ青年部は

一、地域を支える青年経済人として　先導者たる気概で研鑽に努めよう

一、国際社会の一員であるべき　国際人としての教養を高めよう

一、豊かな郷土を築くために　創意と工夫　勇気と情熱を傾けよう

一、文化を伝承しつつ　新しい文化の創造に向かって歩を進めよう

一、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じ　力を合わせ　国の礎となろう

青年部活動への提言

——各地青年部へのアンケート調査結果から——

各地青年部へのアンケート調査は、さまざまな問題を提起してくれている。そして、各地青年部それぞれの活動に大きな格差があることも事実である。設立からの歴史は長いが活動はそうでもないところ、日は浅くともバリバリ活動しているところ、何をしてよいのか試行錯誤を繰り返しているところ、正にさまざまである。青年部創生期の苦しみなのであろうか。

大切なことは、意欲である。"青年部はこのままではいけない。何とかしなければ"、この意欲は、すべてのアンケートの中で読みとることができた。この意欲がありさえすれば、青年部の将来は明るいと確信している。活動の積み重ねが歴史をつくり、伝統を築く。その過程で、しっかりとした骨組みがつくりあげられていく。

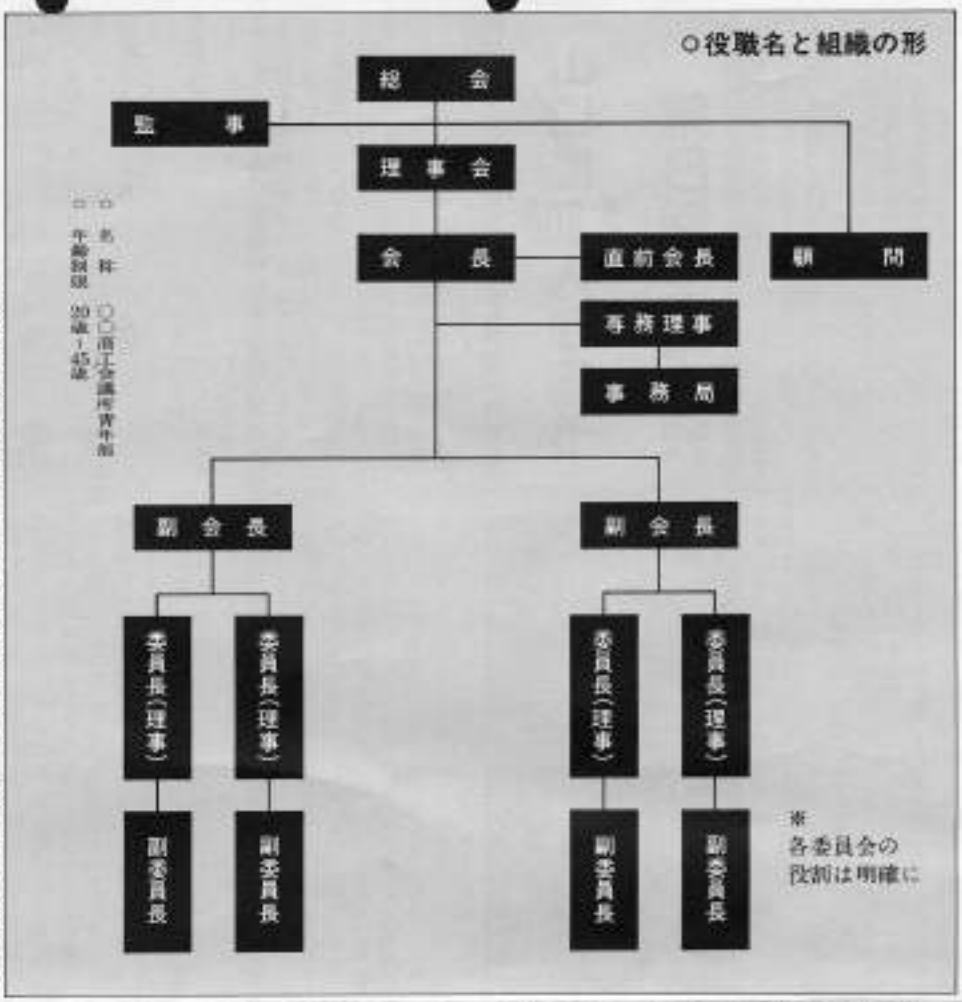
青年部メンバーの諸兄が、このアンケート結果の数字の裏を読み取り、自分の青年部がどこに位置づけられるのか、みんなが何を考え、悩んでいるのかを知り、次へのステップの資料としていただければ幸いである。

次に、これからの青年部を考える。に当たり、ポイントになるべき点を問題提起として取り上げてみた。

① 組織としての形をつくろう。

青年部組織の名称、役職名、会員資格と年齢制限、委員会の設置の有無と名称、これらの組織上における統一性がここ数年やかましく言われているにもかかわらず、なかなか実現されない。

各地青年部の設立や活動事情の中で統合化できないものがあろうと思われるが、できるだけ早く全国統一されることが、今後の青年部の運営が円滑化される糸口であることは言うまでもない。



⑤ 青年部運営には、会長・執行部の強力なリーダーシップが必要。

会の組織が未成熟であればあるほど強力なリーダーシップで会員をグイグイ引っ張っていかなければ、組織の結束は生まれてこない。言い換えれば、青年部においても、現状ではまだまだ会長、執行部のあり方によって大きく変わる発展途上にあると認識できる。"何が上たいか"、"何をすべきか"、"何ができるか"を明確にし、使命感をもって会員を引っ張ることが求められているのである。

このためには、年功序列にとらわれることなく、真に目的意識をもち、リーダーシップを発揮できる会長、執行部を選出することこそ、会員の責務でもあろう。

③ 出席率の低さを憂慮しよう。それには、委員会活動の活発化と魅力ある機会づくりが必要。

各地青年部の最も悩むところが出席率の低さである。出席率が低ければ会の意志統一ができず、事業を行うことが難しくなる。このため、会員相互のコミュニケーションが敬遠になり、ひいては目的不在となってしまうものである。

この点をしっかりと引っ張っていく役割を担うのが、各委員長（理事）であろう。青年部活動の活性化の浮沈を握るのは委員長（理事）にかかっていると言えよう。

④ 地域の他青年団体も、"豊かで住みよい地域づくり"の目的は同じ。しかし、アプローチの方法が異なる青年部。

青年会議所、経営者協会青年部、青年団、○○○青年部等、地域にはいろいろな青年団体が活動している。その究極の目的は基本的には同じであろう。そして、それぞれに独自性をもって活動している。

私たちの活動について、少なくとも他団体とは異なる手法、アプローチがあるわけで、ここに青年部の独自性がある。それは経済的側面における切り口であろう。

地域に密着しつつ、全国的に実現されるならば、直接的な社会的効果もあることながら、青年部同志の強力な合意が生まれてくるはずである。継続が前提である。

⑦ 青年部は青年期の行く道を示す道しるべ。

由青連は、常に各地青年部に情報を提供するとともに情報を収集し、信号を流し続けることが当面の役割の第一であろう。この中で、方向性をつくり出していく必要がある。

強い指導力を求める声も多いが、これが強すぎると反発となる。大変難しいところであるが、新年期から充実期への青年部のあり方は、ある意味では、由青連の指導力にもかかっていよう。

私たち青年部の活動は、商工会議所活動の一翼を担うものであっても、それが商工会議所活動の一環として中に埋れるものであってはならない。埋れるものであれば、当然のことながら、商工会議所活動の活性化にはつながらないと考えられる。"青年部の卵"を工夫、新しい理想に基づく展開ができてこそ、私たちの存在価値が上がり、商工会議所に刺激を与え、ひいては活性化につながるものと考えられる。

こうした実績の積み上げが、自ずから青年部の認識につながるものであろう。行動で成果を示すことが、"変革するよりも先行する"のではなかろうか。

⑥ 全国統一事業推進の提案。

私たちは全国に700余所・2万4千人を超える大きな組織となった。そしてその活動は、地域に密着して着実に成果を上げつつある。その活動内容は共に通じたものも多い。これを、効果的に全国ネットで統一事業として展開できないだろうか。

地域に密着しつつ、全国的に実現されるならば、直接的な社会的効果もあることながら、青年部同志の強力な合意が生まれてくるはずである。継続が前提である。

⑦ 青年部は青年期の行く道を示す道しるべ。

由青連は、常に各地青年部に情報を提供するとともに情報を収集し、信号を流し続けることが当面の役割の第一であろう。この中で、方向性をつくり出していく必要がある。

強い指導力を求める声も多いが、これが強すぎると反発となる。大変難しいところであるが、新年期から充実期への青年部のあり方は、ある意味では、由青連の指導力にもかかっていよう。

若手経営者に期待する

仙台商工会議所
会頭　氏家榮一

最近のわが国経済は、個人消費が順調に拡大する中で物価は安定し、また設備投資も力強さを増し、企業収益も増加して雇用情勢も改善が進むなど、総じて内需主導型の景気拡大が緩やかに続いておりますが、一方において地域格差の拡大、国際競争の激化、さらには4月から導入されます消費税の問題など解決すべき問題も山積みとなっております。

加えて、情報化、技術革新、国際化、高齢化は急速に進展し、さらに経済のソフト化、サービス化など社会の成熟に伴う産業構造の転換に直面しつつあります。

こうした経済環境の中にあって、企業が今後とも安定した成長を続けていくためには、経営の合理化、減量化はもとより、的確な情報を早く把握し、分析するなどの企業努力がますます重要であることは言うまでもありません。

申すまでもなく、わが国の企業は戦後の復興期から今日に至るまで、幾度か産業構造の変化を経験し、厳しい対応を迫られて参りました。

中小企業におきましては、この間の産業構造の方向が必ずしも有利でなかったにもかかわらず、事業転換や、成長分野を中心とした新しい事業分野への展開を図りながら日本経済の一翼を担って参りましたが、今後も益々その役割が強まるものと思われます。

事業転換を例にとってみますと、成功させるためには、成長性のある分野や、できるだけ既存の経営資源を活用できる分野など、適切な転換先を選定することが最も重要なことでありますが、基本的にはやはり人材、情報、技術及び資金などの経営資源の充実を図っていくことが大切であると存じます。

また、経営資源の乏しい中小企業においては、異業種交流が活発に行われておりますが、異業種交流は発想の転換を生み、新たな事業展開をするうえで極めて重要であり、こうした動きは今後さらに進展するものと思われます。

このように考えますと、これからの経営者は、時代を先取りする進取の気性と、変化への適応力を備え、経営資源を多角的に活用できるかどうかが経営を大きく左右するものと存じます。

こうした意味において、言うまでもなく、自由な創造力をあわせも、次代を担う地域のリーダーであります若き方若手経営者の果たす役割は更に重要であり、企業に携わっております私どもといたしましても、そのご活躍には大きな期待を寄せております。

本年は仙台市が市制百周年を迎え、4月には政令指定都市に移行する記念すべき年でございます。

当所といたしましても、東北の中枢都市としての役割を担い、大きな飛躍の年にいたしたいと存じますが、それぞれの事業の実施にあたりましては、柔軟な発想とフロンティアスピリットをもった若手経営者の方にも参画していただき、時代を先取りする新鮮な感覚と豊かな感性をいかんなく発揮していただきたいと存じます。

全国各地の商工会議所青年部の会員各位におかれましては、これまでもそれぞれの地域において、豊かで潤いのある地域経済社会の構築のためにご努力されておりますが、今後とも来るべき二十一世紀に向けて、その使命を十二分に認識され、事業を通じて地域社会の発展にご尽力されますよう念願いたします。

山口に2,200人が集う 第8回全国大会

女性オーナーいんたびゅー

島崎㈱代表取締役
島崎洋子(埼玉県)

常にチャレンジ精神で

●経営理念

社是には「以和貴為」を掲げており、社内は、もとより協力工場とともに、共栄の道を求めていきたい思いです。

信頼を失うことなく愛され、愛する会社に向かって前進する会社の業績向上を図ることにより社員、社会に還元したい。(金期ボーナスは7、12月の他に、3月には現金で支払っております。昨年は、全員南米旅行へ行き、海外研修も致しました。

●経営方針

社業の繁栄を基本として、その方法として、

1、信用を重んじる。
2、会社の品位を保つ。
3、時代にマッチした、知識、努力により発展繁栄する。

●ファッションに関する考え方

今、女性の活躍が大となり、非常にオシャレになってきています。また、各々が、個性をよく知り、自分にあったオシャレをする時代になってきています。下着に関しても、今までのような機能面での追求ではなく、ファッションとしてとらえられてきています。そして、人の目にふれることの少ない部分に、思いきりぜいたくし、自分の好きなように着こなし、楽しむ時代になってきております。

ランジェリーは、ボディーファッションの中で最も装飾性に富み、秘められたオシャレが出来、楽しむことが出来るので、注目されてきております。

感性で物を選ぶ時代になり、消費者ニーズにあった物づくりの中で、多様化や生活様式の価値観など、また、生活提案型のアプローチなど、常に新しい変化に注目していかねばならないと思います。

●会社の現状

一主婦であった私が、父の死後、突然の社長業となりましたが、皆様のおかげで、無事5年が過ぎました。売上高は、2倍以上となり、利益も、それなりになって参りました。

何も知らない強さで、今まで来ましたが、お取引先様、社員の皆様のご協力以外、何ものでもないと思っております。

私が出来ることは、お約束を守ること「納期、品質、心をこめて」買って下さるお客様が喜んで下さる物づくり」のスタートでした。

今は、お取引先様も、スーパー関係様以外に、カタログ販売、訪問販売のお取引先様も増え、仕加値の高い物づくりも増えてきました。素材も多様化し、デザインもで、多様化や生活様式の価値観など、また、生活提案型のアプローチなど、常に新しい変化に注目していかねばならないと思います。

●会社の現状

一主婦であった私が、父の死後、突然の社長業となりましたが、皆様のおかげで、無事5年が過ぎました。売上高は、2倍以上となり、利益も、それなりになって参りました。

何も知らない強さで、今まで来ましたが、お取引先様、社員の皆様のご協力以外、何ものでもないと思っております。

私が出来ることは、お約束を守ること「納期、品質、心をこめて」買って下さるお客様が喜んで下さる物づくり」のスタートでした。

今は、お取引先様も、スーパー関係様以外に、カタログ販売、訪問販売のお取引先様も増え、仕加値の高い物づくりも増えてきました。素材も多様化し、デザインもアウターにも着られるような物もつくっております。企画、製造、販売の自社メリットを活かし、さらに充実させていきたいと思っております。

●将来への展望

今年2月、新工場、株式会社シャトル」が操業します。スタートは30名ですが、一年後には50名、その後は100名までの工場を、新潟に岩手県の隣県高田市に設立致しました。

岩手の高田市は、素晴らしい自然と人情のあたたかな所ですので、「ものづくり」の厳しさの連続と取り組んで「いいものづくり」が出来る人たちを増強し、心あたたかな商品をつくり、買って下さるお客様が喜んで下さるような商品を、社長は働く喜び、将来への夢が絶え続けられるような会社にしたいと考えております。

また、本社においては、オリジナル性があり、競争力のある商品づくり(ブランド名アルティメーカーメーズ)の開発を続けております。これは、3年後にスタートさせたいと思っております(生活提案型の新しい商品群ですので、中年以上のお部屋着など、夢のある商品でもある商品も考えております。このほか、工場では、縫製システムの改革、多品種、少ロットへの対応、コンピュータでの生産、管理、人材育成のための教育など、積極的にやって、さらに充実させたい思います。来年は、本社、隣にショールームをつくりたいと思っております。

常にチャレンジしていくつもりです。平成元年に新たな工場が稼動出来るのも、何か心に感じるものがあり、活気のあふれるクリエイティブ・カンパニーにつくりあげ、地域の皆様にも貢献したいと考えております。また、皆様からも愛される会社にしたいものだとも、考えております。

引き続き行われた事例発表では「自社の体験談から」と題して、南青連の母南副会長、恵地理事、堀田理事の三人から、それぞれの会社が現在に至るまでの歩みの中で若年労働者や青年達との関わり等、興味ある内容の発表が行われた。

このあと、日本商工会議所特別顧問、岡田卓也氏、㈱ジャスコ代表取締役会長・東京商工会議所副会頭が特別講演「私の経営体験から」を演題に、「小売業のフィロソフィーは平和である」との同氏の経営理念をはじめ、二十代から関わってきた四日市、大阪、東京の各商工会議所との関係、㈱ジャスコの設立から全国チェーン化するまでの経緯等の体験談を披露するとともに、出席した青年部員に対し、「それぞれの地域で、地方の特色を活かした事業を行い、地域経済と商工会議所に新しい風を吹き込んでほしい」との期待を込めて、この一時間三十分にわたる講演に参加者は熱心に聴講、終了後、質問も相次ぎ、深い感銘を受けたようであった。

体験談に深い感銘

岡田日商特別顧問が講演

第6回中央研修会

全国商工会議所青年部連合会の第六回中央研修会が二月九、十の両日、東京都新宿区の「財」日本青年館で開催され、全国各地青年部の代表者ら約二百十人が参加した。この研修会は、青年部の果たすべき役割をはじめ若年部活動の方向、人材育成、会報コンクールの部・入賞者発表・一期連に対し、会原会長からそれぞれ表彰状と記念品が手渡された。特に会報コンクールに関しては、審査に携わった㈱ジャパンニュースセンター取締チーフエディター・森嶋男氏から、応募のあった会報の見出しや知識点の付け方を中心に審査講評が行われた。

続いて、南青連創立5周年を記念して実施した「懸賞論文の募集」及び「会報コンクール」の入賞作に対する表彰式が行われ、懸賞論文の部・三人、会報コンクールの部・八青年部・一期連に対し、会原会長からそれぞれ表彰状と記念品が手渡された。特に会報コンクールに関しては、審査に携わった㈱ジャパンニュースセンター取締チーフエディター・森嶋男氏から、応募のあった会報の見出しや知識点の付け方を中心に審査講評が行われた。

最後に、日本商工会議所常務理事・宇垣一彦氏が「商工会議所青年部への期待」と題して講話。地域社会並びに商工会議所活動の活性化に果たす青年部の役割等について、参加した青年部員に期待を込めた話が行われた。

また二日目は、昨年行った青年部へのアンケート調査を基に特別委員会で限定した商工会議所青年部の「綱領」「指針」について、綱領特別委員長からその理論説明が行われた。さらに、アンケート調査の報告書を兼ねる南青連創立五周年記念誌「明日への挑戦」の掲載内容にも言及。この「綱領」及び「指針」と併せてとりまとめた「青年部活動に対する提言」等を、今後の各地青年部活動の運営の参考にしてほしい旨の報告があった。

あいさつする原田会長(内内は体験談を披露する岡田日商特別顧問)

約2,200人が参加した式典

懇談会で記念撮影する石川日商会頭と荻原会長

「私の野球人生」をテーマに講演する衣笠祥雄氏

懇談会会場に配置された"ミカンの木"

熱意こそが明日を創る

わが国は、内需拡大によって、景気は緩やかではありますが、安定基調にあります。一方では、貿易摩擦、円高等を背景に産業構造の転換が進み、企業を取り巻く経営環境は必ずしも良いとは申されません。今後、益々国際経済との調和ある発展を図っていくことが、強く求められているところであります。

このような状況の中で、今年度商青連では「創ろう　ふるさと　21世紀への跳躍」をスローガンに、会員各位の事業を図って参りました。

今年度の役員定数は、監事も含めて36名で、年7回の正副会長会議、年8回の各委員会、役員会うち移動役員が2回で、東京を離れ、四国ブロックの高知、近畿ブロックの北大阪と、研修を含めた見学も交流会等をも、大いなる成果を得ることができました。このうち、商青連結成5周年いう節目の各委員会の事業内容は次の通りです。

①特別委員会を設置し、会員であります商青連の綱領と指針及び「今後の青年部のあり方」について、ここ10ヵ月間、いろいろの方々より意見を頂き、今後の新しい時代に向けての我々の歩む方向づけ、あるいは提言について検討し、「明日への挑戦」という題目での報告書を著わし創立5周年記念誌を作成いたしました。これらが既存青年部、あるいは新たに設置される青年部への道しるべになればと思います。

②組織強化委員会において、全国組織の商工会議所（1月20日現在）のうち約3割に青年部が設置され、六二・八%の組織率になりました。今後の課題としては、大きな都市に設置促進を望むものであります。今年度より3ブロックすべてで運営研究会が開催され、各ブロック内の課題あるいは提言について意見が活発に交換され、中身の濃い運営研究会であり、これらの意見を反映していくようにしていかなければなりません。

③研修委員会では「魅力ある青年部活動」等をテーマとした懸賞論文を募集いたしました。

④広報委員会では活動の心、よりどころであります青年部の会報コンクールを実施いたしましたが、多くの青年部から応募して頂きました。その中のほとんどの作品が、地域の特性を活かした活動内容等を掲載しており、心強く思うとともに、改めて日本列島の広さを改めて感じました。

⑤研修委員会では11月に優良会員をトレンド会議現地セミナーを実施し、大阪地区優良会員5社を46名（1泊2日のツアーで見学しました。第一印象として、すべての企業において時代の先取り感覚が求められており、時代に対応した企業がこの、あるいは新しい地域文化が生まれる創造の街という感じでした。そして、何よりも住んで働いている人々の生き生きした姿に、私も目がしらが熱くなる思いがいたしました。

この後は、2月10日に中島研修会（東京）を開催いたしました。

会長　荻原幸昭

が相集い、企業・文化・地域について語り合い、会場は熱気のるつぼとなり、商青連は心ひとつの合い言葉のもと幕を閉じました。

平成元年度全国大会・第11回主管については今年度3月所よりエントリーされ、私共も年度で一ヵ所に決めなければならない責任とちゅうよりエントリー頂いたことは、多くの方々に参加して頂き、時代の感性を感じとって頂いたものと思います。

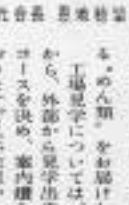
青年部の第8回全国大会は、日南の石川会議をお迎えし、全国より2千200名の参加を頂き、中国ブロックの山口市において開催されました。日本経済を支える中小企業の後継者、あるいは経営者

企業は人なり　社員教育に力

北大阪商工会議所青年部
元会長　恩地　稔　留
（恩地食品㈱代表取締役）

昭和元年創業以来、「手打を超えためんづくり」をモットーに、愛情を込めた麺の供給に、ただ一筋に今日まで努力を惜しまず明朗って参りました。

お陰で順調に発展し、昭和60年には第2工場（京都工場）の完成に成功致しました。京都工場は、「目で美味しさと安心を買って頂きたい」との、私のかねてからの願望を実現させた工場であります。最新機器の導入と最新鋭の衛生設備を整え、製造については技術革新を図り、製品のひとつひとつに心を込めて生産、常に原材料を厳選し、新鮮な味わい、ソフトな舌ざわりと腰のある麺づくりを心がけております。



専務　恩地　稔

「なるほどうまい」と実感して頂いております。

見学者は多方面にわたり、お得意先をはじめ地域の消費者グループ、学校関係、食品関係の団体から、保健所の方々の協力等々で連続して行われています。その他に、一般消費者への製品の紹介も忘れてはならない大事なことであると、13年前から評判浮うんにナレビ、ラジオを通じてのコマーシャルを電波に乗せて、より多数の人、より広い地域に「みんなちょっと」の美味しさを知らせ、買って、食べて、満足して頂ける努力を重ねる。めん類。をお届けしています。

工場見学については、開設当初から、外部から見学出来るようにコースを決め、案内標も配置しております。また、生産から食卓に届けられるまでの全過程をビデオで紹介し、理解を深めてもらった後に見学。それから試食をして頂き、「なるほどうまい」と実感して頂いております。

こうした教育を通じ、社員一人ひとりが、自分の職場が見えてくるし、自分の仕事もどうすればいいのか理解が深まって、最近では、仕事が生き甲斐であると考えている社員が増加しているようです。

弊社は若い社員が多く、転売技術もまだ未熟であることから、手々に効率を上げていきたいと考えております。商品、製麺が次第に上がってきたのも、今まで述べました事柄が、相乗作用して成果を上げてきたものであると確信しております。

京都工場建設に際しては、多少の不安もありましたが、今日では、大いに戦力になり、品質が安定しているため、得意先が、安心して販売できるので、受注が増大、売上げの増加につながっております。今後もいっぱいの需要の増大があっても、京都工場があれば、万全

平成元年度役員（敬称略）

◎会長
西新商工会議所青年部（沖縄県）
会長　石川正一

◎副会長
浦河商工会議所青年部（北海道）
副会長　奥田利明
長井商工会議所青年部（山形県）
会長　鈴木隆則
村上商工会議所青年部（新潟県）
常任理事　中島英一
関商工会議所青年部（岐阜県）
副会長　深川寛治
掛松商工会議所青年部（静岡県）
副部長　山本尾正
洲本商工会議所青年部（兵庫県）
元会長　後藤忠敏
岩国商工会議所青年部（山口県）
副部長　小林幹生
阪出商工会議所青年部（香川県）
副会長　水尾一二
平戸商工会議所青年部（長崎県）
副会長　町田雅之

◎理事
美祢商工会議所青年部（北海道）
部長　前田豊太郎

青森商工会議所青年部（青森県）
部会長　柳谷　薫
仙台商工会議所青年部連合会（宮城県）
会長　宮城達男
福島商工会議所青年部（福島県）
副会長　石森成彦
鳥津商工会議所青年部（富山県）
会長　友田幸雄
下諏訪商工会議所青年部（長野県）
副会長　小松正吉
水戸商工会議所青年部（茨城県）
理事　平松克幸
桑名商工会議所青年部（群馬県）
会長　能澤孝博
本庄商工会議所青年部（埼玉県）
代表理事　渡辺隆一
市川商工会議所青年部（千葉県）
理事　宮田克己
鎌倉商工会議所青年部（神奈川県）
代表理事　石原新一
春日井商工会議所青年部（愛知県）
総務委員　前田龍生
鈴鹿商工会議所青年部（三重県）
会長　広森重孝
武生商工会議所青年部（福井県）
副会長　南谷和夫
高槻商工会議所青年部（滋賀県）
部長　田中伸治

北大阪商工会議所青年部（大阪府）
元会長　小西義明
高砂商工会議所青年部（兵庫県）
会長　原田義之
鳥取商工会議所青年部（鳥取県）
副会長　鳴谷昌生
松江商工会議所青年部（島根県）
理事　永瀬烈志
津山商工会議所青年部（岡山県）
副部長　津本憲一
徳島商工会議所青年部（徳島県）
会長　増　克由
八幡浜商工会議所青年部（愛媛県）
副部会長　宮本英太郎
高知商工会議所青年部（高知県）
会長　程田　均
鹿島商工会議所青年部（佐賀県）
副会長　福井　正
刈田商工会議所青年部（大分県）
理事　井藤　始
日向商工会議所青年部（宮崎県）
会長　三輪征司
指宿商工会議所青年部（鹿児島県）
監事　城増　徹

◎監事
大館商工会議所青年部（秋田県）
会長　伊藤　健
小山商工会議所青年部（栃木県）
部長　津佐久彦明

反復質問でも感じました。審査会の結果、静岡県連の主管に決定いたしました。嬉しくもあれた青年部の方々には結果報告を申し上げ、心良く理解して頂き、伸せて協力を申し上げるというメッセージとして頂きました。

以上が商青連の本年度の事業の総括であります。商青連も歩き始めて6年目、幾多の困難を乗り越え、今、5周年の節目に入り、商工会議所の青年部あるいは地域の企業を支える青年経済人として、新たなる飛躍に向かって力強く歩き始めていることを肌で感じております。一方では、青年部の組織の存在を知らない一人ぼっちの後継者がたくさんおります。活動の持ち方であると私は信じております。

ここ10ヵ月間、種々の事業に特段のご理解とご協力を賜わり頂き、なんとか目的地が、かすかに見えてきたような気がいたします。本当に全国の仲間よ、ありがとう！！と申し上げるとともに、仲間である全国各地の会員の皆様方のご活躍をお祈り申し上げ、お礼と致します。

柔軟な思考と勇気と行動を兼ね備えた若者の出現を求めており、若者は年齢ではなく、その人の心の持ち方であると私は信じております。

商青連創立5周年記念 懸賞論文最優秀作

商青連は本年度、創立5周年を迎えたことから各種の記念事業を実施しているが、その一環として商青連会員青年部の所属部員を対象に、「地域活性化に果たす青年部の役割」「魅力ある青年部活動」をテーマに懸賞論文を募集した。

これに対し、各地青年部の所属部員から青年部の活性化等を考えるうえで示唆に富む作品が寄せられ、これらについて審査委員会が中心となって審査した結果、最優秀作には松江商工会議所青年部の山下武氏の論文（全文）を掲載する。

「地域活性化に果たす青年部の役割」

―実行の向こうに明日が―

松江商工会議所青年部（島根県）　山下　武　氏

1、松江市は

松江市は人口14万人、六畳間に置いた風光明媚な町である。1011年、紫式部が松江城を築城して以来、城下町として発展、明治になってからは、県庁の所在地として栄え、昭和25年に京都市、奈良市とともに「国際文化観光都市」の指定を受け、観光都市として栄えてきた。

町の性格としては、江戸時代から第二、第三の産業が各地に現れている。全てがそうであるとは言わないが、想像には企業としての現実が納得されることは、企業サイドに立つと当然のことであるとも言える。

地域にとって誘致企業のメリットは、就労の場の拡大と、それによる消費の拡大である。しかし、それは、あくまで補強であって、基幹にはならない。そのような状況の中で、地域に住む私たちは「企業誘致」一辺倒でよいのであろうか。やはり、私たちは地域の中で生まれ、成長する「産業おこし」に積極的に取り組まねばならない。いってみれば「企業誘致」は他人の力を当てにした活性化である。

今、松江市にとって必要なのは、自らの力で、自らの意志で「おこす」ことである。それが松江市の体質改善にも結びついてくるわけである。

2、産業おこし

町の活性化の手段として、企業誘致が効果的な方法であるということから、全国各地に「工業団地」が建設され、都会から大企業の工場を誘致し始めた。メリットは、現状の後継者難、安い土地価格、安くて勤勉な労働力など。しかし、企業は合理化や国際競争の中で、効率の悪くなった地方の工場の統廃合を容赦にも断行している。地元も「廃棄商品」と称され、自己改革を積極的に行うことが重である。可もなく不可もなく、時代の流れに逆らわず、受け入れていく町と言っても過言ではない。

町は二の次といった事実が各地に現れている。全てがそうであるとは言わないが、想像には企業としての現実が納得されることは、企業サイドに立つと当然のことであるとも言える。

地域にとって誘致企業のメリットは、就労の場の拡大と、それによる消費の拡大である。しかし、それは、あくまで補強であって、基幹にはならない。そのような状況の中で、地域に住む私たちは「企業誘致」一辺倒でよいのであろうか。やはり、私たちは地域の中で生まれ、成長する「産業おこし」に積極的に取り組まねばならない。いってみれば「企業誘致」は他人の力を当てにした活性化である。

今、松江市にとって必要なのは、自らの力で、自らの意志で「おこす」ことである。それが松江市の体質改善にも結びついてくるわけである。

3、松江の産業は

松江市は「城下町」であり、「県庁所在地」であり「観光都市」である。「産業都市」ではない。その、松江市で産業は何かというと、次の3つの切り口が考えられる。

①時代に対応した新しいモノ
②今あるモノを拡大させる
③昔あって、今途絶えたモノの復活

4、青年部の体質

さて、以上の背景の中で商工会議所青年部は、どのような役割を担うべきかという問題である。しかし私は、「担うべきか」の以前に、「商工会議所青年部は地域の産業活性化の一翼を担えるか」を問題としたい。

私は、現状の商工会議所青年部では残念ながら「担えない」と言いたい。そんな積極的な活動をしていない私なので、言えた義理ではないのだが、今は、敢えて言わなければならないと思っている。

それは「能力」の問題ではない。「意識」の問題であり「意欲」の問題である。そう言うと何とかなりそうに思えるが、これがなかなか難しいことである。「意識」も「意欲」はあるにせよ「能力」がないなら、鍛えればよい。しかし、「能力」はあるけれど「意識」「意欲」のない人間を動かすのは簡単にいかない。昨年、創立10周年を迎え、50人の会員を擁する「松江商工会議所青年部」は、まさに「能力」あって「意識」「意欲」の欠けた組織と言ってよいだろう。

5、実行すること

「意識」「意欲」の改革は「実行」しかないと思っている。研修も、講演会も、視察も「実行」のためのプログラムでなければならない。研修のための研修、講演会のための講演会、視察のための視察はいらない。

では、何を「実行」するのか。当面、「実行」しなければならないものとして、次の3つが考えられる。

①自分の事業の活性化を実行
自分の事業の洗い直しを行い、改善できるところはないか。無駄はないか。拡大できるところはないかを真剣に検討する。そして、地域でのトップになるための計画をつくり、実行する。とにかく、自分の事業の発展に対して「意識」「意欲」を持ち合わせていないとすると、それは論外である。

②自分の事業の所属する業種の協調化を実行
日頃は、お互いに競いあって成長するわけであるが、その中にあって、共同できるもの、合理化できるものはないか、考えてみる。そして話し合って実行する。

③自分の事業と異なる業種との共同化を実行
同じ業種でないことが、異なる業種であるからこそ共同できる可能性が見つけられる。異業種交流のように交流が先にあるのではなく、目的を先に持った交流を始めたらよい。

このように、地域の産業活性化に対して青年部の行えることは、自分の事業でできることからはじめ、その輪を広げていくことであると思う。松江市の産業構造を云々することから入り込むと、自分の事業とは全くかけはなれたところで論じられてしまう。そうではなく、自分でできることから始めるべきである。86人の会員が各々動き始めたら、その動きは「うねり」となって、きっと全体によい影響を及ぼすであろう。

会員が、それぞれに「実行」するためのメッセンジャーなり、情報を提供するのが、青年部の組織である。「計画づくり」は行政の仕事であり、商工会議所青年部は、あくまでも「実践部隊」である。その認識に立って活動を展開する中に、「産業の活性化」だけでなく「青年部の活性化」も図れると確信するものである。

山下武氏（やました・たけゆき）氏プロフィール
相山ドランムンダルーム代表取締役。松江青年部では、昭和53年に入会とともに地域開発委員会委員、60年度から理事（地域開発委員会副委員長）、62年度から地域開発委員会委員長となり、現在に至る。松江市出身、43歳。

（会報コンクール審査結果）

最優秀賞に下関商工会議所青年部会

今年度、全国商工会議所青年部連合会の創立25周年記念事業として、各地商工会議所青年部で発行している会報紙（誌）を対象とした「全国商工会議所青年部会報コンクール」を行い、機関紙「翔生」5号で募集をしたところ全国各地より三十七カ所の青年部より会報紙（誌）の応募があり、（株）ジャパン・ホームセンター取締役チーフエディター・森唯男氏に審査、協力を、お願いし、最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点を決定いたしました。また審査発表は、平成元年2月9日に日本青年館（東京）で行われた第6回中央研修会において広報委員会の谷川委員長から、審査経過について説明をし、表彰式が行われ、最優秀賞より各々に表彰状と記念品を贈呈しました。その後、森唯男氏より審査講評をお願いし、表氏の今までのジャーナリストとしての経験より、新聞の校正の仕方、表紙の付け方、句読点の打ち方などの講演がありました。また入賞作品は、会場ロビーに展示してあり、休憩時間には参加者は回覧していました。

□最優秀賞と写真

下関商工会議所青年部会　会報「風流」

□優秀賞

糸見商工会議所青年部会　会報「青年部風流」
土浦商工会議所青年部　会報「青部」
豊岡商工会議所青年部　会報「どどけちこけち・ビュナタウン」

□佳作

勝田商工会議所青年部　会報「若い世」
西松商工会議所青年部　会報「ゲ・ネクスト」
武生商工会議所青年部　会報「まち思考」
奈良商工会議所青年部　会報「なら工藤」
大分県商工会議所青年部連合会　会報「繁栄」

と決定しました。

最後に、本数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。

（編集後記）

1月7日、先の天皇陛下が崩御され、激動の昭和から、平成へと時代が変わりました。

われわれ商青連も今年度、萩原会長のもと、商青連創立5周年という節目に当たり、「特別委員会」を設置し、「青年部の不独のあり方」としての商工会議所青年部の「綱領」「指針」を発表しました。また商青連未加入青年部への勧誘等の関係、アンケート調査、懸賞論文の募集、会報コンクール等の実施など、われわれ青年部の今後の道しるべとなる事と思われます。

また次年度石川正一会長のもとすばらしい事業展開がなされることを希望します。

そして今年度、会報コンクールには多数の応募をいただき誠にありがとうございました。どの会報も、すばらしいもので青年部のレベルの高さを感じさせられます。ご応募いただいた作品のすべてに対し参加賞と考えておりましたが、予算の都合により割愛させていただきました。誠にかたじけなくお願いいたしますようお願い申し上げます。また機関紙「翔生」の発行に際して私の不慣れのため原稿集めなど、かなりご迷惑をかけ、大変申し訳ないと思っています。

最後に本紙発行に際して御投稿いただきました皆様、委員会の方々及び事務局の方々に対し、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。また、次年度広報委員会の充実した紙面づくりにご期待いたします。

ありがとうございました。

広報委員長　谷　川　晴　久

平成元年度 商工会議所青年部の設置状況

（平成元年1月末現在）

青年部数（会議所数）	設置年	会議所名
北海道		
二〇（一〇）	昭五二	旭川、釧路、函館、帯広、苫小牧、室蘭、小樽、北見、網走、稚内、留萌、名寄、紋別、根室、滝川、砂川、芦別、美唄、士別、富良野、上川、遠軽、浦河、様似、静内、三石、新ひだか、浦幌、足寄、釧路北、釧路東、釧路中央、釧路西、釧路臨海、釧路阿寒、釧路湿原、釧路大楽毛、釧路白樺、釧路鶴居、釧路丹頂、釧路音別、釧路釧路川、釧路春採、釧路昭和、釧路星が丘、釧路桜ヶ丘、釧路緑ヶ丘、釧路新川、釧路新富士、釧路新栄、釧路新釧路、釧路新橋、釧路新和、釧路新川南、釧路新川北、釧路新川東、釧路新川西、釧路新川中央、釧路新川南東、釧路新川南西、釧路新川南中央、釧路新川北東、釧路新川北西、釧路新川北中央、釧路新川東中央、釧路新川西中央、釧路新川中央中央、釧路新川南東中央、釧路新川南西中央、釧路新川北東中央、釧路新川北西中央、釧路新川東中央中央、釧路新川西中央中央、釧路新川中央中央中央、釧路新川南東中央中央、釧路新川南西中央中央、釧路新川北東中央中央、釧路新川北西中央中央、釧路新川東中央中央中央、釧路新川西中央中央中央、釧路新川中央中央中央中央、釧路新川南東中央中央中央、釧路新川南西中央中央中央、釧路新川北東中央中央中央中央、釧路新川北西中央中央中央中央、釧路新川東中央中央中央中央中央、釧路新川西中央中央中央中央中央、釧路新川中央中央中央中央中央中央、釧路新川南東中央中央中央中央中央中央、釧路新川南西中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川北東中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川北西中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川東中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川西中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川南東中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川南西中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川北東中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川北西中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川東中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川西中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央中央、釧路新川南東中央、釧路新川南西中央、釧路新川北東中央、釧路新川北西中央、釧路新川東中央、釧路新川西中央、釧路新川中央、釧路新川南東中央、釧路新川南西中央、釧路新川北東中央、釧路新川北西中央、釧路新川東中央、釧路新川西中央、釧路新川中央、釧路新川南東中央、釧路新川南西中央、釧路新川北東中央、釧路新川北西中央、釧路新川東中央、釧路新川西中央、釧路新川中央、釧路新川南東中央、釧路新川南西中央、釧路新川北東中央、釧路新川北西中央、釧路新川東中央、釧路新川西中央